

特集

災害に備える

昔から、二百十日から二百二十日のころは台風の時期とされています。
昨年10月の台風23号の爪あとがいまだに残る津山地域では、台風の襲来に備え、
地域でも家庭でも十分な対策が必要です。—— 備えあれば憂いなし！

大雨や台風などが接近してきたときには、テレビやラジオで気象に関する最新の情報が流されます。特に
昨年の台風23号で倒木被害のあった場所では、土砂災害などの2次災害の危険性があります。気象情報には
常に関心を持ち、災害に対する備えをしましょう。

気象注意報・警報・情報の種類

	種類	発表の時期
注意報	風雪、強風、大雨、大雪、濃霧、雷、乾燥、なだれ、着氷（雪）、霜、低温、融雪、高潮、波浪、洪水、浸水など	災害が起こる恐れがある場合
警報	暴風、暴風雨、大雨、大雪、高潮、波浪、洪水、浸水など	重大な災害が起こる恐れがある場合
情報	台風、低気圧、大雨、大雪、少雨、長雨、低温、日照不足	注意報・警報を補完する必要がある場合など

風と被害

平均風速(毎秒)	影響
10m以上15m未満	傘をさせない
15m以上20m未満	風に向かって歩けない
20m以上25m未満	人が転倒する。車の運転は危険
25m以上30m未満	立ってられない。樹木が倒れる
30m以上	屋根が飛ばされたり、木造住宅が壊れる

台風の強さ

強さ	最大風速(毎秒)
強い	33m以上44m未満
非常に強い	44m以上54m未満
猛烈な	54m以上

※台風が接近しているときに、屋根や雨どいなどの修理をするのは非常に危険です
※飛散の危険性が高いものは室内へ